

1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践 —教育の情報化の推進を通して—

2 夏季実技研修内容

- (1) 日 時 平成29年8月9日(水) 10:00~12:00
- (2) 会 場 宇和島市立岩松小学校パソコン教室
- (3) 参加対象 宇和島市小・中学校情報教育主任
- (4) 参加者数 24名
- (5) 内 容

| | |
|----|---|
| 研修 | ICTを活用した授業改善 ～タブレットの活用と授業改善～ 講師：愛媛県総合教育センター 情報教育室 指導主事 谷山 伸司 指導主事 平井 敬浩 |
|----|---|

① 研修1「プログラミング教育について」

2020年度から小学校でもプログラミング教育が導入されるにあたり、導入されるようになった経緯や目的について講義をしていただいた。プログラミング教育を通して、「自分で学ぶことを学ぶ児童」を育成していくことが大切であると教えていただいた。また、プログラミング教育をしていく上で、使うと便利なフリーソフトウェアなどについても教えていただいた。



② 研修2「プログラミングを使つての実践」

プログラミングを使った授業「リズムでアンサンブル(音楽)」を児童になりきり体験した。まず、ウェブアプリの「Scratch」を使つて音の音階、長さ、リズムをプログラミングした。そして、グループで集まり、その個人で作った音楽をパソコン上で重ねてアンサンブルとした。作業は個人で行うが、グループで一つの音楽を作っていくことを目的としていたので、隣同士で「わたしが、こんなリズムを作るから、あなたはこんなリズムを作つて」などと話し合いながら制作することができた。操作もあまり難しくなく楽しみながらプログラミング教育を体験することができた。

プログラミング教育を、どのように授業の中に組み込んでいくのかが具体的によく分かり、これからの参考になった。



| | | |
|---|--|---------|
| 出前講座 宇和島市立岩松小学校 | | H29.8.9 |
| 音楽科学習指導案 | | |
| 1 題材名 リズムを選んでアンサンブル | | |
| 2 目標 | | |
| ○ ウェブアプリケーション(Scratch)を使い、リズムの重なりや音の組み合わせを工夫してリズムアンサンブルを楽しむ。 | | |
| ○ 楽器の音色の違いや重なり方を感じ取り、音の組み合わせを工夫して演奏する。 | | |
| 3 本時の指導に当たつて | | |
| ウェブアプリケーション(Scratch)を使い、拍の長さに気を付けながら、リズムをプログラムしていく。プログラム作成においては、リズムの繰り返し方や重ね方をグループで話し合う。リズムアンサンブルのプログラミングを通して、自分の思いや意図を伝え合ったり、友達考えに共感したりしながら、音楽表現の喜びを感じ取らせたい。 | | |
| また、実際の楽器を使つて、プログラムしたリズムアンサンブルを演奏し、音の強弱も工夫させたい。デジタルの音楽では味わえない、楽器の音色も味わいながら聴く活動も取り入れたい。 | | |
| 4 展開 | | |
| 学習の流れ | ○指導上の留意点・◎評価(評価方法) | |
| 1 本時の課題を確認する。 | リズムをプログラミングして、リズムアンサンブルをしよう。 | |
| 2 リズムをプログラムする。 | ○ あらかじめ、基本となるリズムを6つ用意しておき、その中から3つリズムを選択して、プログラムさせる。 ○ プログラムの際には、拍の長さに気を付けさせる。 | |
| 3 リズムの繰り返し方や重ね方をグループで話し合い、リズムアンサンブルを作成する。 | ○ ワークシートを基にリズムの繰り返し方や重ね方をグループで話し合わせ、試行錯誤させながらリズムアンサンブルをプログラムさせる。 | |
| 4 作成したリズムアンサンブルを鑑賞する。 | ○ 互いのグループのリズムアンサンブルを鑑賞し、気付いた点や感じたことを伝え合わせる。 ◎ 拍の長さに気を付け、リズムの繰り返し方や重ね方を工夫しながら、リズムアンサンブルをプログラムし、進んで音楽表現に親しもうとしているか。 (観察・ワークシート・発言) | |
| 5 プログラムしたリズムアンサンブルを実際の楽器で演奏する。 | ○ プログラミングで作成したリズムアンサンブルを、音の強弱にも気を付けながら、実際の楽器で演奏し、デジタルではない、実際の楽器の音色を味わわせる。 | |

3 今後の課題

プログラミング教育を年間指導計画の中にどのように組み込んでいくのかなど、研修を深めなければいけないことがたくさんある。また、次々に新しい機器などの導入もされてきている。情報教育主任を中心として実践を更に深め、よりよい機器活用の研究や指導力向上のための研修の充実にも努めたい。